

神石郡PTA連合会研修会から学びたい

校長 藤井 和彦

師走とはいえ、この時期としては穏やかな過ごしやすい今日この頃です。目を楽しませてくれた紅葉も終わり、校地内や通学路の落ち葉との格闘からもまもなく解放されそうです。

先日の学習発表会へは保護者・地域の多くの方においでいただき、それぞれの学年の劇・トランプ・鼓隊の演奏・全校合唱をご覧いただきました。児童はこうした仲間と織りなす表現活動を通して、また一歩成長した姿を見せてくれました。ご参加ありがとうございました。

十二月四日、神石郡PTA連合会研修会があり、腰塚勇人さんの講演を聞きました。講師である腰塚さんは、中学校の体育教師をされていた二〇〇二年、1級の腕前だったスキーの最中によもやの転倒そして頸椎骨折という重傷を負い、医師からは「一生寝たきりか車椅子生活」という宣告を受けました。この先の人生に絶望し自暴自棄になりかけるも、周りの支えに感謝し、「再び生徒の前に立ちたい」という希望と決意のもと、懸命のリハビリの結果、右半身のマヒが残るものの、奇跡の職場復帰を成し遂げられました。

腰塚さんは多くの人々の支えを受け、助けられた経験をもとに五つの誓いを打ち立てました。

- 1 口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
- 2 耳は人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう。
- 3 目は人のよいところを見るために使おう。
- 4 手足は人を助けるために使おう。
- 5 心は人の痛みがわかるために使おう。

子どもたちに関わる私たち大人は学校教育と家庭教育の違いはあれ、「人」を「子ども」に置き換え、腰塚さんの生き方に学ばなくてはならないと感じました。